

■『IT NEWS LETTER』 2026年5月号

～ ITの分からないことも、まずは一歩から ～

(1) 「バックアップしているから安心」は本当でしょうか？

中企業のデータ管理において、「バックアップは取っています」という声は多く聞かれます。しかし実際には、“復元できる状態になっているか”まで確認できていないケースも少なくありません。

例えば、以下のような事例は、実際に多く発生しています。

- ・バックアップ先もランサムウェア被害を受けてしまった
- ・クラウド同期をバックアップだと思っていた
- ・古いデータしか残っていなかった
- ・復元手順が分からず、業務再開まで時間がかかった

特に注意したいのは、

「クラウドに保存しているから安全」という思い込みです。

クラウドサービスは非常に便利ですが、誤削除や同期ミス、アカウント乗っ取りなどにより、必要なデータまで消えてしまう可能性があります。

本当に重要なのは、「保存されていること」ではなく、“必要な時に戻せること”です。

そのためには、バックアップを一か所だけに保存するのではなく保存先を分散し、一定期間ごとにデータを管理しながら、実際に復元できるかどうかを定期的に確認しておくことが重要です。

また、障害発生時に慌てないよう、事前に対応手順を整理しておくなど、日頃からの運用体制を見直しておくことが、企業の安定した業務継続につながっていきます。



(2) ITは「担当者だけの仕事」ではなくなっています

中小企業では、IT管理やシステム対応を一部の担当者だけに任せているケースも少なくありません。

これまでは「詳しい人が対応するもの」という考え方でも運用できていた部分がありましたが、現在は状況が大きく変わってきています。

クラウドサービスやセキュリティ対策、パスワード管理、生成AIの活用、情報共有ツールなど、ITは日常業務そのものと深く結びつく存在になっています。業務の多くがデジタル化されている今、ITのトラブルは単なる“機械の問題”ではなく、業務停止や情報漏えいなど、会社全体の問題につながる可能性があります。

そのため、特定の担当者しか状況を把握していない状態は、大きなリスクにつながる場合があります。

- ・担当者が不在になると誰も対応できない
- ・重要な設定やパスワードが属人化している
- ・社員ごとにセキュリティ意識に差がある
- ・トラブル時の対応方法が共有されていない

など、実際のトラブル発生時に大きな影響を及ぼします。

特に近年は、サイバー攻撃や不審・詐欺メールなども増えており、

「自分には関係ない」という意識が思わぬ事故につながるケースもあります。

だからこそ今後は、「IT担当者が頑張る」だけではなく、組織全体で最低限のITリテラシーを持つことが重要です。基本的なセキュリティ知識や社内ルールを共有し、定期的なIT教育を行いながら、情報や対応を一部のみに集中させすぎないことが、結果として“止まりにくい組織づくり”につながっていきます。

ITは一部の専門担当者だけの問題ではなく、今では企業経営や日々の業務を支える重要な基盤の一つになっています。



現在、バックアップ運用の見直しや情報管理体制の整理に関する無料相談、社員向けITリテラシー研修（初回支援）を実施しております。

「担当者任せになっている」「何から見直せばよいかわからない」といった段階でも問題ありません。現状に合わせた無理のない改善をご提案しております。お気軽にご相談ください

近年は、システム障害だけでなく、担当者不在や情報の属人化によって業務が止まるケースも増えていきます。だからこそ、“誰か一人に任せる”のではなく、組織全体で支えられるIT体制づくりが重要になっています。

IT顧問

よろず相談から業務支援まで、IT専門家が寄り添いご対応いたします。

IT NEWS LETTERへのご要望、ご質問は、it_project@k-taxpartners.co.jp まで。